

岡山市政ニュース 速報版

2022年8月12日 日本共産党 岡山市議団 NO. 280

岡山市北区大供1-1-1 086-803-1707

質問時間削減?! 市民の前で議論尽くせ

岡山市議会の議会運営委員会（議運委）の「勉強会」が8月9日に開かれ、来年の改選後の「議会改革」について、各会派の提案を議論しました。

このうち、予算と決算を審査する特別委員会の設置については、17日に議運委を開き可否を決めることになりました。さらに、自民政隆・創政などは、個人質問の全廃を抱き合わせで導入しようとしています。公明も個人質問の時間短縮を提案しています。

<自民系・公明・創政などの提案>

- 2・9月議会で予算・決算を審議する特別委員会を設置
- 2・9月定例会での個人質問の全廃や短縮、代表質問の時間短縮
- 委員会質疑時間の削減につながる会派持ち時間制の導入 など

「勉強会」は、市民には非公開で、議事録も残しません。党市議団と新会派の「無所属クラブ」は、時短に反対するとともに、公開の場で議論を尽くすことを強く求めています。

9月議会でも「時短」提案

これとは別に、9月定例会の運営について、当局からコロナ対応の協力要請があった場合に質問時間を短縮することを自民政隆会が提案。予決算特別委設置案と併せて、17日の議運委で時短内容を決することになりました。（提案内容は下表）

代表質問

5人以上の会派… 60→45分

3～4人の会派… 40→30分

個人質問

一括方式… 20→15分

一問一答方式… 20→10分

※当局がコロナ対策に人員を集中させていて、議会に配慮要請があった場合に実施(今回のみ適用)

ぜひ傍聴を 8/17(水) 13:30～ 議運委室（議会棟2階）

党市議団などの要求で、提案を議論・採決する議運委が開かれることになりました。今回の「時短」提案を初めて公開の場で議論する機会です。議事録も残されず。各会派が、市民の声を届ける議会質問の削減についてどんな主張をするか、あるいは理由を説明せずいきなり採決しようとするのか、市民の目でチェックしましょう。ぜひ傍聴にお越しく下さい。

採決案件① 2022年9月議会での「時短」案

採決案件② 来年改選後からは予決算を特別委で審査する案

* 開始1時間前から議会棟2階受付で受付、傍聴定員10人（定員超は開始10分前に抽選）

ココが問題 自民・公明・創政の「提案」

- ①「本命」は議会質問の縮小 「特別委と分科会での審査に時間を割くためには代表や個人の質問時間を削減」「会派持ち時間制にして委員会での質問時間を短縮」などの主張が中心。どの提案も、議員の質問時間は現在より減ります。議会質問の縮小が「本命」なのは明らかです。
- ②市民の声が届きにくく 2・9月議会で個人質問が全廃されれば、代表質問できない小会派は、その議会では質問自体できなくなります。「会派持ち時間制」は大会派に有利な時間配分方法です。現在は、委員会での発言時間は制約されていませんが、制限されることになります。小会派の議員の発言ははます縮められます。市民の声が届きにくくなります。
- ③検証もせず再変更 決算の審査を特別委から常任委員会に変更したのは2年前。今回の提案では、この間の検証について言及がありません。議会の運営を検証なしに再度変更しようとするのは、「ご都合主義」と批判されても仕方ないのではないのでしょうか。
- ④市民に非公開 予決算審査のあり方や代表・個人質問の時間などは、議会のあり方に関わる重要な問題です。それにもかかわらず、市民には非公開の場で議論し結論まで出してしまうおうとするのは大問題です。党市議団などが主張し、決定は公開の議運委で行うことになりましたが、ここでも賛否の結論だけ出すのではなく、市民の前で提案理由を含めて議論することが重要です。

現在の岡山市議会は…

- 代表質問…原則として2・9月議会で実施。5人以上の会派は60分、3~4人の会派は40分（当局答弁を含まない議員の持ち時間）。
- 個人質問…年4回の定例議会すべてで実施。一括方式と一問一答方式を選ぶことができ、それぞれ原則20分（当局答弁を含まない議員の持ち時間）。
- 当初予算の審査…2月議会の各常任委員会の中で議論。
- 前年度決算の審査…9月議会後に各常任委員会で審査。3年前までは特別委員会を設置しての審査だった。
- 常任委員会…各議員の質疑時間に制限は設けていない。

来春は市議選 市民の声を届ける議員は誰？